

# 東京都 インフルエンザ情報

東京都健康安全研究センター

## 今号(第22号)のトピックス

- 2013-14年シーズン(2013年36週/9月~2014年20週/5月)のまとめ  
患者報告数の週別推移、年齢階級別患者報告数、入院患者サーベイランス  
ウイルス検出状況・ウイルスの遺伝子系統樹解析

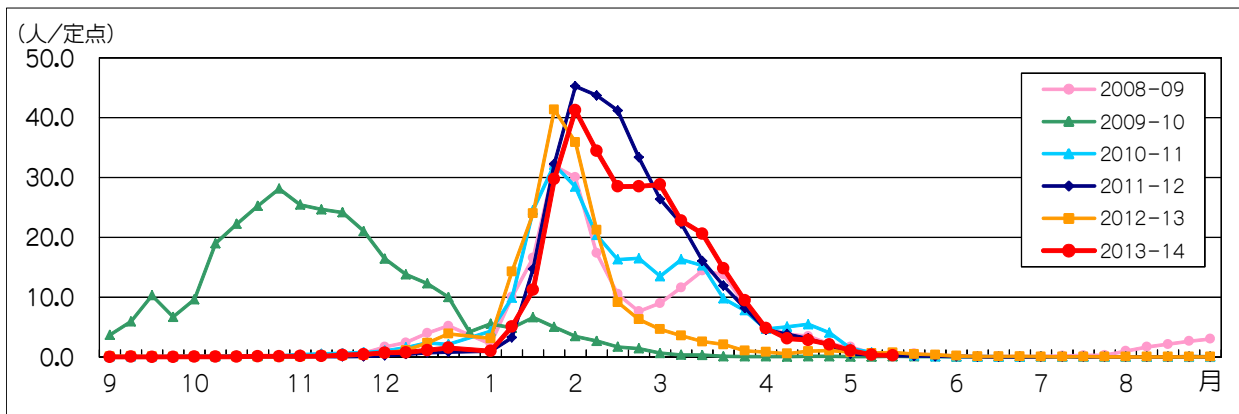


図1. インフルエンザ定点\*当たり患者報告数の推移(東京都)

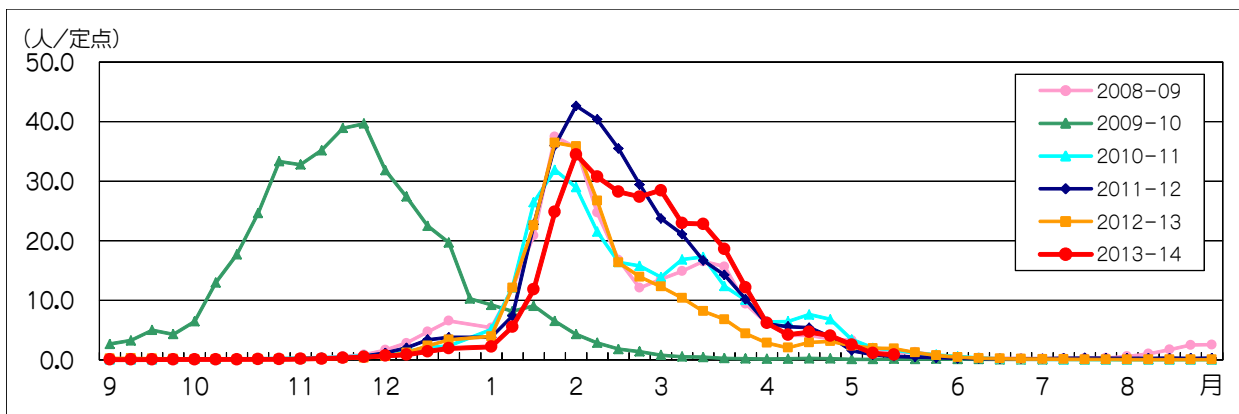


図2. インフルエンザ定点当たり患者報告数の推移(全国)

### 2013-14年シーズンのまとめ

東京都における2013-14年シーズン(以下、今シーズン)の流行は、2013年51週(12月16日~22日)に1.12人/定点と流行開始の指標となる患者報告数1.0人/定点を超え、5週(1月27日~2月2日)に41.18人/定点とピークになり、その後、多少の増減はあったものの順調に減少しました(図1)。全国でも、同様な

傾向が認められました(図2)。

今シーズンのインフルエンザ定点当たり患者報告数の累計は過去10年で3位(295.45人/定点)と、比較的大規模な流行となりました。

\*:インフルエンザ定点

419か所(全国約5,000か所)の医療機関を「インフルエンザ定点」として指定しています。

\*\*：基幹定点

25か所(全国約500か所)の医療機関を「基幹定点」として指定しています。

(1) 患者報告の状況

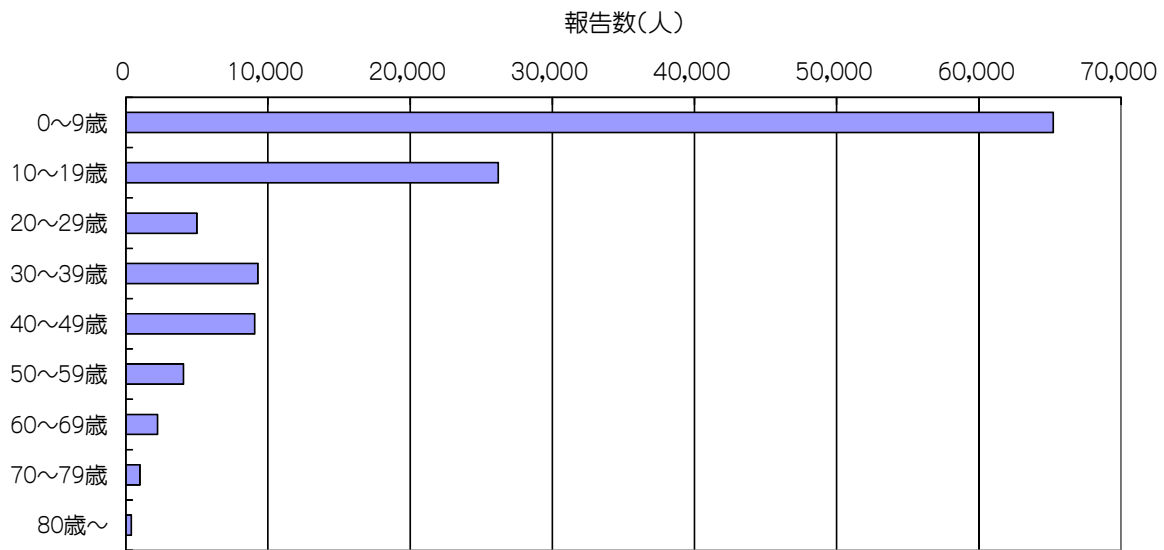


図3. 年齢階級別インフルエンザ患者報告数 (東京：2013年36週-2014年20週合計)

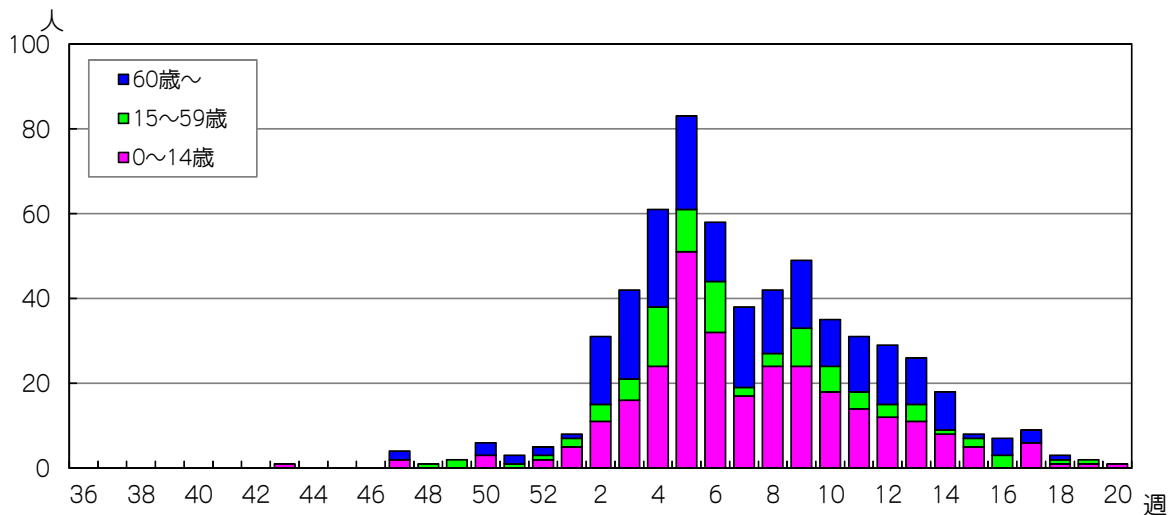


図4. 入院患者サーベイランス報告者数の推移

患者報告数を年齢階級別にまとめると図3のようになります。0～9歳の年齢域の患者報告数が例年は全体の約60%を占めますが、今シーズンは約53%とすこし少なくなっています。

入院患者サーベイランスでは、603人(24,000人/定点)の報告がありました。年齢階級別でみると0～14歳が289人(48%)、15～59

歳が91人(15%)、60歳以上が223人(37%)でした。昨年は0～14歳164人(32%)、15～59歳65人(13%)、60歳以上284人(55%)であったのに比して、今年は0～14歳の割合が多くなり、60歳以上の高齢者の割合が減少しています。週別の入院患者の報告数はインフルエンザ定点からの患者報告数の動向と一致し、5週にピークを迎えました(図4)。

表1. 定点医療機関から搬入された検体の検査結果

週	検体数	陽性数	インフルエンザウイルス			
			AH1pdm09	AH1	AH3	B
36週(9/2-8)	18	0	0	0	0	0
37週(9/9-15)	21	0	0	0	0	0
38週(9/16-22)	9	0	0	0	0	0
39週(9/23-29)	16	0	0	0	0	0
40週(9/30-10/6)	14	0	0	0	0	0
41週(10/7-13)	17	0	0	0	0	0
42週(10/14-20)	12	0	0	0	0	0
43週(10/21-27)	11	0	0	0	0	0
44週(10/28-11/3)	17	1	0	0	1	0
45週(11/4-10)	15	1	0	0	1	0
46週(11/11-17)	14	2	0	0	2	0
47週(11/18-24)	14	2	0	0	0	2
48週(11/25-12/1)	8	3	0	0	1	2
49週(12/2-8)	15	1	1	0	0	0
50週(12/9-15)	18	5	2	0	1	2
51週(12/16-22)	10	3	2	0	0	1
52週(12/23-29)	19	10	4	0	5	1
1週(12/30-1/5)	0	0	0	0	0	0
2週(1/6-12)	27	17	7	0	6	4
3週(1/13-19)	41	26	15	0	3	8
4週(1/20-26)	50	44	26	0	5	13
5週(1/27-2/2)	61	46	29	0	7	10
6週(2/3-9)	76	56	34	0	7	15
7週(2/10-16)	21	17	9	0	1	7
8週(2/17-23)	38	25	10	0	3	12
9週(2/24-3/2)	29	19	8	0	1	10
10週(3/3-9)	41	31	10	0	1	20
11週(3/10-16)	35	29	5	0	5	19
12週(3/17-23)	19	12	0	0	4	8
13週(3/24-30)	25	12	0	0	1	11
14週(3/31-4/6)	21	11	3	0	0	8
15週(4/7-13)	36	16	1	0	2	13
16週(4/14-20)	17	7	0	0	0	7
17週(4/21-27)	19	7	0	0	0	7
18週(4/28-5/4)	19	4	0	0	1	3
19週(5/5-11)	13	3	0	0	1	2
20週(5/12-18)	18	5	1	0	0	4
合計	854	415	167	0	59	189

(2) ウイルス検出状況

定点医療機関等から当センターに搬入された検体854件についてウイルス検査を実施した結果、415件からインフルエンザウイルスが検出されました(図5、表1)。内訳は、AH1pdm09 167件、AH3亜型59件、B型189件でした。

また、学級閉鎖など定点医療機関以外から、当センターに搬入された検体53件についてウイルス検査を実施した結果、43件からインフルエンザウイルスが検出されました。この内訳は、AH1pdm09 18件、AH3亜型14件、B型11件でした(図6)。

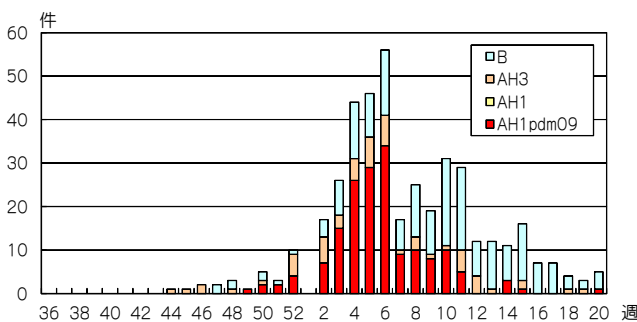


図5. インフルエンザウイルス検出数  
(定点医療機関から搬入された検体)

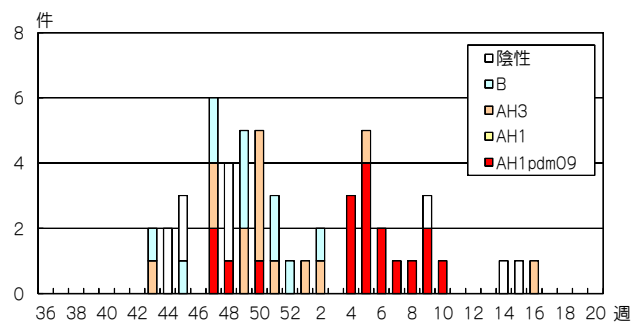


図6. インフルエンザウイルス検出数  
(学級閉鎖など定点医療機関以外から搬入された検体)

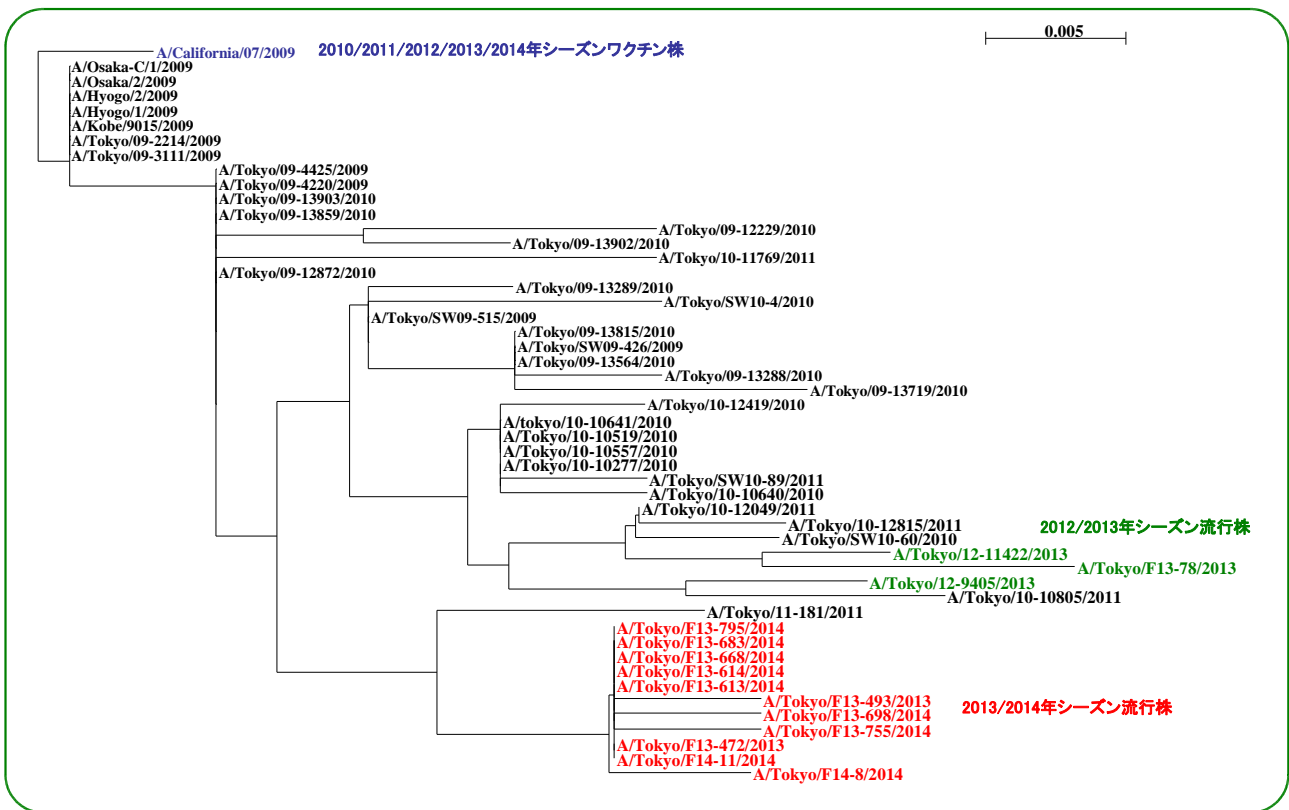


図7. 東京都におけるAH1pdm09インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

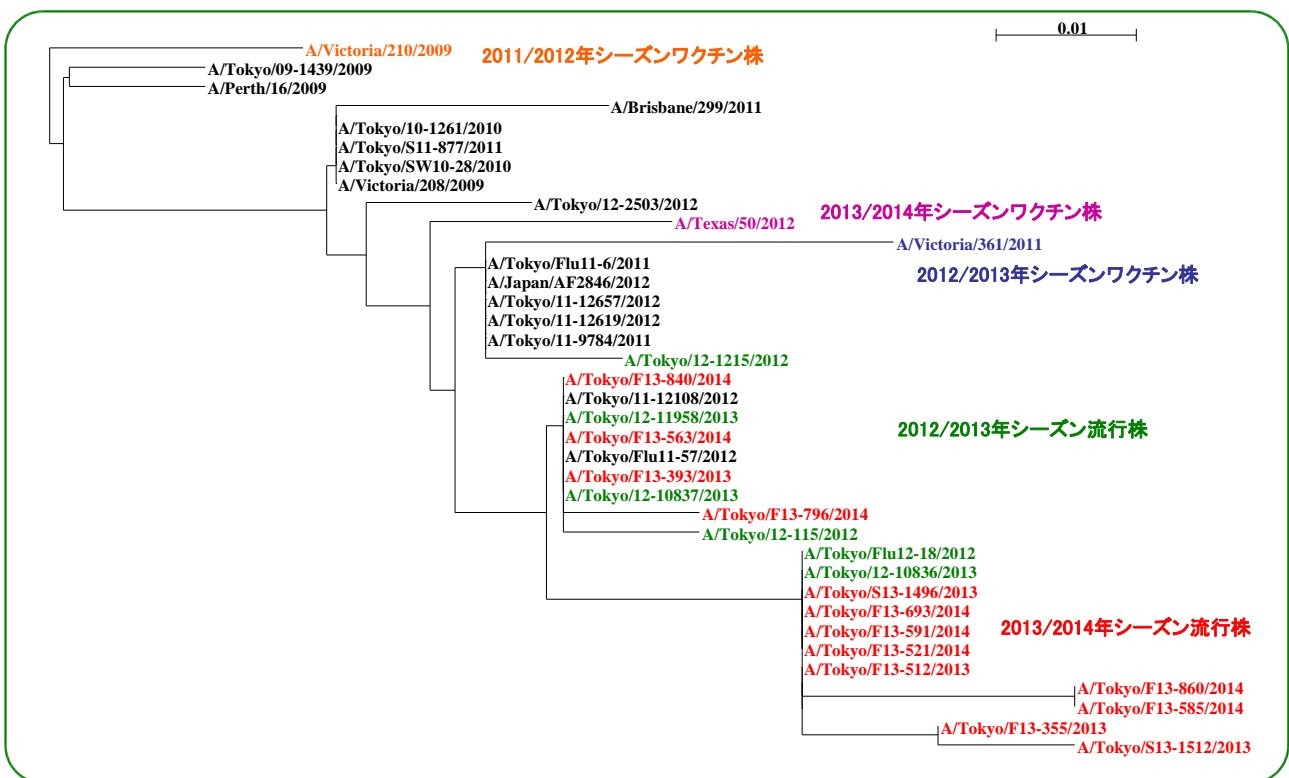


図8. 東京都におけるAH3亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

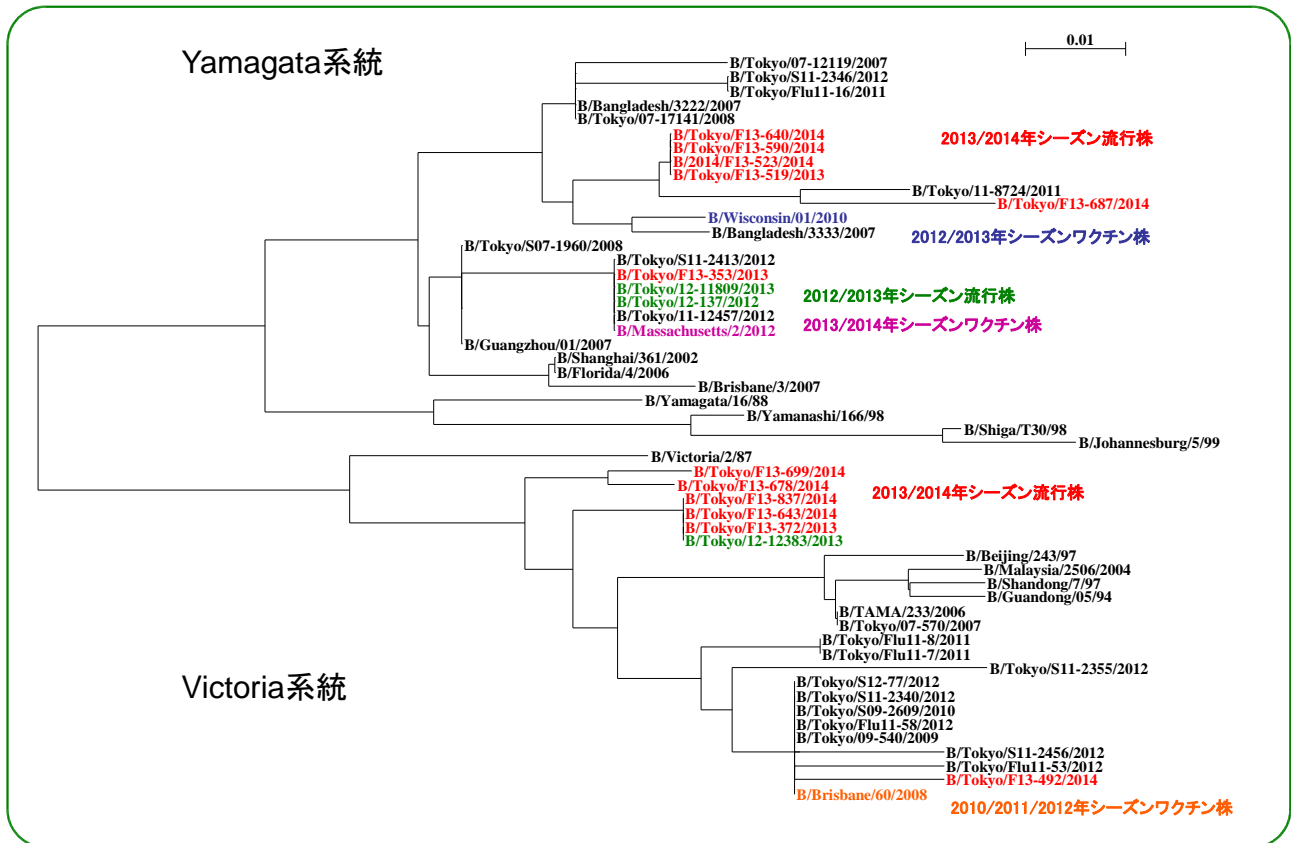


図9. 東京都におけるB型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

### (3) 2013/2014年シーズンに検出されたインフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹(東京都)

今シーズン検出されたインフルエンザウイルスについてHA遺伝子の一部を用いたアミノ酸配列を検査し、ワクチン株や過去に流行したウイルス株との比較を行いました。

AH1pdm09の流行株は、ワクチン株(A/California/7/2009)から伸びた枝に含まれていました(図7)。昨シーズン(2012/2013年)の流行株とは異なる位置にありましたが、他の亜型ウイルスに比べて変異は小さいものと推察されます。このためWHOによる次のシーズン(2014/2015年)のワクチン推奨株には、引き続きA/California/7/2009類似株が選定されています。

A/H3亜型の流行株は、ワクチン株(A/Texas/50/2012)や昨シーズンの流行株を含む枝に属していました(図8)。このためA/H3亜型の次期シーズンワクチン推奨株にも、引き続きA/Texas/50/2012類似株が選定されています。

B型は、昨シーズン同様Victoria系統株とYamagata系統株が混在する流行となり、シーズンを通して両系統株が検出されました(図9)。AH1pdm09やAH3亜型の流行に重なる形で小流行が確認されましたが、B型の流行はA型の流行が落ち着いた後も続いています。今シーズンの流行もVictoria系統に比べ、Yamagata系統が優勢であったため、WHOの次期シーズン3価ワクチン推奨株にはB/Massachusetts/2/2012が選定されています。

この号が2013-14年シーズンの最終号となります。

◆ 東京都インフルエンザ情報 ◆

編集・発行

東京都健康安全研究センター  
企画調整部健康危機管理情報課  
〒169-0073

東京都新宿区百人町3-24-1

TEL: 03-3363-3213

FAX: 03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>